

パネルディスカッション発言記録

発 言 者	発 言 内 容
司会	<p>大変長らくお待たせいたしました。会場の準備も整いましたので、続いて次第の4「パネルディスカッション」を始めさせていただきます。ここでは「今こそ考えよう、安心して暮らし続けられるまち」と題しまして、任意協議会会長と委員の皆様によるパネルディスカッションを行います。</p> <p>はじめに、本日パネルディスカッションにご参加いただく協議会委員の皆様をご紹介させていただきます。</p> <p>まず、皆様より向かって左側、本日のパネルディスカッションのコーディネーターを務めていただきます、明治大学政治経済学部教授の牛山久仁彦様です。ここで、先生のプロフィールをご紹介させていただきます。お配りしております次第をご覧ください。</p> <p>明治大学政治経済学部 地域行政学科長でいらっしゃる牛山久仁彦教授は1961年、長野県諏訪市に生まれ、中央大学法学部卒業後、明治大学助教授などを経て現在に至ります。先生は行政学・地方自治論を専門とされており、主な著書として『自治体議会の課題と争点』や『分権時代の地方自治』などがございます。</p> <p>また、日本学術会議連携会員、日本行政学会理事、日本地方自治学会理事などのほか、全国町村議会議長会「議員の報酬のあり方検討委員会」委員、神奈川県総合計画審議会副会長、神奈川県地方創生推進委員会座長、埼玉県行政不服審査会委員などを歴任され、相模原・津久井地域の合併にあたっては、合併協議会のアドバイザー、まちづくりの将来ビジョン検討委員会委員も務められました。</p> <p>なお、先生には小田原市・南足柄市「中心市のあり方」に関する任意協議会の委員を務めていただいております。</p> <p>続きまして、パネリストのご紹介をさせていただきます。</p> <p>左側から任意協議会会長 加藤憲一小田原市長でございます。</p> <p>続きまして、小田原市自治会総連合会長の木村秀昭様、南足柄市自治会長連絡協議会前地蔵堂自治会長の佐藤廣理様、社会福祉法人小田原市社会福祉協議会会長の小野康夫様、南足柄市 PTA 連絡協議会・神奈川県 PTA 連絡協議会役員の宗像達也様でございます。</p> <p>ただいまご紹介しました6名の皆様でパネルディスカッションを進めていただきます。皆様、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、牛山先生に進行をお願いしたいと存じます。</p>
牛山委員	<p>本日はシンポジウムにお集まりいただきありがとうございます。</p>

木村委員	<p>大学では地方自治論の研究をしており、行政のあり方などを勉強させていただいています。また、私は相模原市民として、合併を経験しています。</p> <p>本日のパネルディスカッションは6つのテーマにわけ、パネリストの皆様から様々なお話を伺っていきます。</p> <p>最初は、任意協議会の協議後、皆様がどのような感想をもたれたか、併せて、自己紹介もいただければと思っています。</p> <p>順番に木村委員からお願いします。</p> <p>自治会総連合会長の木村です。</p> <p>私が一番初めに感じたのは、合併ありきの協議ではないということを感じ、なかなか発言が難しかったのが第一印象です。その中で、加藤任意協議会会長がお話しされたと思いますが、合併するしないは別で、南足柄市、小田原市の事務事業の3,270件について協議をし、年間約18億円の財政効果が出たことは非常に良かったと思います。</p> <p>それにしても南足柄市、小田原市は少子高齢化や生産年齢人口の減少、また、扶助費は増える一方で、それらを考えると、10年間で約150億円という話もありましたが、これもいつかは減ってくると思っています。それを考えると南足柄市はまだ古い建物はあまり見受けられませんが、小田原市の中では、築30年～50年の支所等もあります。これからは公共施設の再編、統廃合を考えていかなければいけないかというのが、協議に参加させていただいての印象です。</p>
佐藤委員	<p>南足柄市自治会長連絡協議会の佐藤です。自治会が南足柄市の標高400～500メートルの位置にあり、南足柄市役所からは一番遠い位置にあります。</p> <p>任意協議会に参加して、行財政改革を強力に推し進めると同時に、10年後、20年後を見据えて、ここで知恵を出し合い、最良の選択を今考えることが必要かと思いました。</p>
小野委員	<p>私は小田原市社会福祉協議会会長の小野です。福祉部門の委員として選任されました。2点感想を述べさせていただきます。</p> <p>1つ目は委員就任のお話があった時、正直、「中心市のあり方」というのは、何を意味するのか分かりませんでした。合併、中核市等のテーマがあり、合併を議論すると聞いて驚きました。私自身が小田原市と南足柄市が合併することを考えたことがなかったからです。今回の任意協議会の名称には、いろいろ複雑な調整があったでしょうし、十分な議論もあったことと思いますが、市政の最重要課題としては、その名称が市</p>

宗像委員	<p>民にとっては抽象的で理解に時間を要したと思います。わかりづらかったと思います。</p> <p>今日のシンポジウムのように、ストレートに「合併」についてということであれば、理解し易かったです。</p> <p>2点目は、協議を進める中で「合併するのか、しないのか」の論点と「合併の方式、編入か対等か」という基本論についての議論が少なかった印象があります。</p> <p>もう少し盛り上がる意見交換が必要だったと思います。</p> <p>南足柄市 PTA 連絡協議会、神奈川県 PTA 連絡協議会の役員の宗像です。木村委員さんからもお話があったように、これから、両市が迎える高齢化、少子化を踏まえて、生産年齢世代の一員として、発言させていただきます。本日はよろしくお祈いします。</p>
加藤会長	<p>改めて、協議会の会長を仰せつかりました小田原市長の加藤です。まずは、去年の10月から、9回に亘っての協議にご参加いただいた牛山先生をはじめ、委員の皆様、また、会場にも委員として参加された方がいらっしゃいますが、本当にご苦労様した。</p> <p>今回は期限を区切り、小田原市と南足柄市が、将来にわたって極めて重要なテーマとなります合併を含んだ3つの案件に関して議論いたしました。</p> <p>まず、ひとつ、大きなテーマを詰めるにあたり、私自身は予断を持たずに客観的な材料を整えて、議論することに努めました。</p> <p>期間が限られる中、十分な議論ができたかどうか、心もとないところもありますが、一定の結論に到達できたことについては安堵しています。</p> <p>また、今回の協議で、両市の主要な分野の方たちが向き合い、すべての事業について洗いざらい議論したこと自体は、極めて大きな経験、または、価値があったと思います。</p> <p>合併の行方がどうなるかに関わらず、自治会、社協や経済界を含めて向き合い、ディスカッションをしました。その中で、いろいろな意見をぶつけ合い、コミュニケーションが取れた。このことは、この地域の未来に向け大きな財産となることは間違いないと確信しています。</p> <p>市民の皆様に十分に説明していくこととなりますので、改めて、身の引き締まる思いです。</p>
牛山委員	<p>委員の皆様のご感想をいただきながら、会長から委員の皆様へのお礼、感想がありました。</p> <p>改めて会長、協議をした意義について、すでにいくつか取り上げられて</p>

<p>加藤会長</p>	<p>お話がありました、今回合併ということでシンポジウムを開き、合併ありきではないというお話もありました。中心市のあり方というのわかりにくかったという委員からの感想もありました。今回の合併の意義を再確認するとどのような点が挙げられますか。</p> <p>いろいろな切り口がありますが、一般的に合併がなされたとき、世の中のいろいろな事例を耳にはしていました。また県西地域については長い間広域連携をやってきて、いつかは1つになると言いながら具体的検討作業もやってきませんでした。</p> <p>今回初めて、小田原市と南足柄市が差し向かいで、すべての事業の棚卸しをし、向き合い、その上でどういう展望が開けるか作業をしました。それを具体的にやったことで、私も南足柄市の加藤修平市長も両市の職員も改めて数値的な意味を確認できました。これは非常に大きな成果でありました。</p> <p>抜本的手段と言われてきましたが、本当にそうなのかというような思いもありながら作業をしてきました。両市の職員が3,270というべらぼうな数の事務事業を突合したことにより、年間約18億円の効果が出ることがわかりました。</p> <p>改めて合併、2つを1つにするものの効果、これが抜本的な行財政改革の手段となり得ることが数字的にはっきりわかりました。</p> <p>もう1つ、そういったことを踏まえて、中核市への移行やより具体的な広域連携の模索にも触れながら、自治体のあり方について、将来の一定的なビジョンを提示することができました。両市のことだけでなく県西地域の未来に向けての中心市の強化というビジョンを一定程度示すことができたと思います。</p> <p>強いて挙げれば、初めて2市で一体的な展望が提示できたこと、抜本的な行革手法として提示できたこと、そして自治体の未来へのあり方の提示ができたこと。この3点が挙げられます。</p>
<p>牛山委員</p>	<p>会長から、この協議の根本的な意義をお話いただきました。</p> <p>3つめのテーマですが、会長から抜本的な行革手法だとか、今後の自治体のあり方の話が出ました。具体的に合併するというものもありますが、この先、行政サービスについて県西地域は特に人口減少が厳しいし、出生率や結婚する人の割合も県内では低い水準となっています。現在の行政サービスが、次第に税収の縮小などにより低下することも想定されます。</p> <p>それについて宗像委員はどのように感じておられるか伺います。</p>

宗像委員	<p>行政サービスが縮小された場合、教育施設や学校、子どもの通学路のグリーンベルトの設置など、子どもの生活環境、学校の教育に対するハード面の縮小が進むのではないかと危惧しています。</p> <p>行政サービスを縮小すると、どうしても弱者から、声が上がらないところからお金を減らされる傾向が他の地域では見られますので、その点を危惧しています。</p> <p>日本は地震大国であり、各学校に地域の自治会の防災備蓄があります。自分たちで準備しなければ学校の生徒の防災備蓄がなかったりします。南足柄市では協議会や各 PTA で準備して防災備蓄もやっています。今後、それに対するサービスも行政が縮小するとやっていただけないのではないかと考えています。その辺りをしっかり考えていただきたいです。</p>
牛山委員	<p>ありがとうございます。小野委員いかがですか。</p>
小野委員	<p>今日の会議でも少子高齢化、人口減少という言葉が何度か出ています。この事態を考えると、これからの日本はあまり明るくないのかなと思ってしまいます。特に若い世代の人たちは、私たち高齢者とは違った、私たちが思う以上に深刻な思いがあるのではないかと思います。それらのことから消費税を10%にすることも決まっていますが、行政サービスのあり方が問われるのも必然かなと思っています。</p> <p>現実に小田原市の敬老行事の見直しがありました。私は75歳になりますが、対象年齢が今年は76歳に、来年は77歳に引き上げるとのことで今年を対象ではありませんでしたが、3年先まで対象ではないということで、事業縮小の苦味を感じています。</p> <p>おそらく、これが3年経てば見直しされ、年齢がもっと引き上げられて、私にはそういう縁がなくなるのではないかと心配しています。高齢者が増えると予算も増額されるという中で、敬老行事の見直しは典型例かと感じています。</p> <p>2020年、3年後には団塊の世代が70歳になり、高齢社会の姿も大きく変わってくるのではないかと受け止めています。介護保険の保険料、生活保護費、そして、市にとって大きな負担となっている国民健康保険料、これは来年から県が統一して管理するという事で仕組みが少し変わりますが、これらの扶助費の経費が年々増えていることも、皆様聞かれている通りです。敬老行事に限らず福祉をはじめとして、様々な事業が縮小や廃止を迫られるということの不安や心配があります。</p>
牛山委員	<p>佐藤委員いかがですか。</p>

佐藤委員	<p>自治会の視点でお話しします。</p> <p>1点目は、自治会では、各種交付金等が削減され、活動の縮小など、特に小さな自治会では影響が大きくなると思います。自治会活動の縮小を図る必要があります。これは、大きな自治会でも同じでしょうが、コミュニティが弱体化してくるのではないかと、そのように考えます。</p> <p>2点目は、特に周辺部の人口が減少し、高齢化が進んでいます。そのような自治会では、公共交通機関が次第に少なくなり、車を持たない家庭は買い物や病院になかなか行けない。そのようなことが現実になると思います。行政として、福祉号のようなものを運営するにしても、その予算を捻出しなくてはなりません。</p> <p>行政サービスが年々低下してくると、市民の負担感が高まってきます。拡大解釈かもしれませんが、市に転入を考える人も、他の市へと考えを変えることもあるかと思えます。そうになると、人口増加は見込めず、人口減少に拍車がかかると考えます。</p>
牛山委員	<p>ありがとうございました。木村委員いかがですか。</p>
木村委員	<p>佐藤委員が自治会の助成金が減ると心配していますが、小田原市は自治会が弱小すると、たぶん市の回覧にしても、何にしても回っていかない。それを考えると、助成金は減らないと思っています。また、コミュニティの話はのちほどありますのでそこでまた話をします。</p> <p>私どもで、行政サービスが縮小された場合に、どうなるか。先ほどもお話ししましたが、老朽化する各公共施設等も、たぶん再編や統廃合、それに併せて、コンビニや郵便局などの機械で住民票などが出るシステムを考えているのではないかと思います。ある程度、統廃合する前に住民がどのコンビニに行っても出来るシステムにしてから統廃合するなり再編していただくのが一番かと思えます。</p>
牛山委員	<p>ありがとうございます。将来的には税収の減少や少子高齢化で行政が厳しくなっていくのは、現場においても不安があると思います。</p> <p>会長、このあたり行政の長としてお仕事されていて、どのようにお話を聞かれましたでしょうか。</p>
加藤会長	<p>日本の中では、大都市の一部を除いて、皆様が今おっしゃられたような懸念が現実のものになっています。私たちも行政を預かる立場としても、どうすればやりくりできるか、どのような部分であれば市民の方に負担いただけるか、どういった部分が、行政が頑張ることで乗り越えら</p>

<p>牛山委員</p>	<p>れるか、いろいろな観点から、アプローチを日夜繰り返しているいろいろな課題に取り組んでいます。</p> <p>その中で、例えば、小田原市については行財政改革の推進委員会があり、年間通じていろいろな目標を掲げて取り組み、そういったものが、財政の余剰を捻り出し、生み出し、それによって、サービスの低下を防ぐということをやっていますが、扶助費についても放っておけば、毎年年率3～5%も増えていく。様々な行財政改革の努力をそういったものがすべて飲み込んでいく状況であり、全体としてなかなかサービスを維持あるいは確保することが厳しい状況です。</p> <p>その中でも木村委員は、小田原市の自治会総連合の会長であります、地域コミュニティが活発になることで、地域の課題への担い手を育てることができないかという取組で、郷土を育てていったり、利用料など受益と負担の見直しをして、市民の皆様にも少し負担をお願いしたり、そういった形で何とか増え続ける公共のニーズを支えていく体制を、少なくなっていくがちな税収で支えていこうとするが、不断の努力はこれからも合併するしないにかかわらず、相当やっていく。それでもなおかつ難しくなることが先ほどお示したような、シミュレーションでははっきりしています。その辺りをどうしていくかということになります。私どもは当然そういった、税収が減って、既存のサービスが維持できなくなる、あるいは、切らざるを得ない。こういったことをもちろん受け入れて良いとは思っていません。何とか維持しようということで小田原市も南足柄市もやっています。</p> <p>それでもやりくりがつかなくなる状況が、この間のいろいろな客観的なシミュレーションで見えてきたという状況です。</p> <p>私は大学で自治体経済論という科目を担当しています。分権改革以降で、自治体の権限や財源が不十分だと言われていています。拡大してきてはいるが、一方で、少子化、高齢化、そして人口減少の中で財政が厳しくなっていく。どうやって、それをしっかり維持し、持続可能な地域社会にしていくのかということで、合併をするにせよ、しないにせよ、何とか行政がしっかり改革していかなければならないと思います。</p> <p>今回は、その中の1つの選択肢として、合併したらどうなるかということで、いろいろな事務事業を整理したり、統合したらどうなるのかという議論がされてきたと思います。どういう形で合併するのならいいのか、ある程度想定しないと、比較する材料がないと思います。</p> <p>その意味で、今回の協議の中では、合併の方式は、編入合併と新設合併というのがあって、今回は編入合併という形式で、やってみたら、どうなるのかということだと思います。よく吸収合併とか対等合併という</p>
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>佐藤委員</p>	<p>のは、印象から編入されると吸収だというような言葉で言われますが、あくまでこれは、合併する際に、新しい自治体を改めてつくるのか、編入する形とするのかの違いです。</p> <p>一方、南足柄市域を小田原市に編入する、編入合併と言われるとやはり編入される側、これは法律用語ですが、南足柄市民の皆様から見ると、どうになってしまうのかという不安や、逆に大きな自治体になるという期待もあるかもしれません。</p> <p>その辺について、佐藤委員いかがでしょうか。</p> <p>まず、市民が必要とする情報をきっちり提示することが非常に大事だと思います。そのことにより、憶測で判断されずに正しい判断をすることが大前提です。</p> <p>平成の大合併の課題として、中心地区は賑わい、周辺地区は賑わいがなくなり全体に地盤沈下になるということが挙げられています。南足柄市でこのようなことが起こらないようにと懸念しています。南足柄市としては、市民と行政の距離が今まで以上に遠くなってしまいます。行政の顔がなかなか見えなくなる。行政と市民が顔を合わせて直接願い、それから、要望等をお互いに話し合っていくような機会が大事だと思いますが、なかなか顔が見えなくなる。そこが1つ課題だと思います。あえて、もう1つお話しさせていただくと、南足柄市域が拡大します。これまで南足柄市で受けていた行政サービスが薄くなってしまわないか。そのような懸念があります。特に中心部から離れている地域では、行政に声が届くのか、そういう手段があるのか、十分に自分たちの願い、要望が通じるのか。そういうような、懸念があるのではないかと思います。</p>
<p>牛山委員</p>	<p>合併後の姿に対する様々な不安があるのではないかと思います。もし、合併ということになれば、その自治会の制度なども統合されていきます。</p> <p>木村委員、今の佐藤委員の話を伺い、小田原市の取組やコミュニティの現状があると思いますが、この辺はいかがでしょう。</p>
<p>木村委員</p>	<p>小田原市の場合252の単位自治会があります。その上に26の連合会があり、連合会長が月1回、広報委員長会議という会議で地域の様々な問題等を市長、副市長、企画部長、教育長と全員参加の中、地域で困ったことをそこで市長に直訴したり、各担当部署にお願いするというようなシステムを小田原市は取っています。南足柄市においても、小田原市と合併した場合、その方法でやっていくのかなと思っています。そ</p>

	<p>の代わり、自治会長さんは大変になるかもしれないが、そういう形で今はやっています。</p> <p>また、コミュニティですが、加藤市長が誕生されてから、やはり、これから行政がどこまでも地域の中に入るのは難しいということで、できれば地域ごとにコミュニティ、まちづくりをして、自分たちにできることは地域の皆様で力を合わせてやっていく。それも、1つの行革かなと思っています。そのかわり、地域の自治会長は、10年前はのんびり過ごしていましたが、加藤市長が就任してから、まちづくりができ、コミュニティをやるということで、仕事量は増えていることは事実です。</p> <p>10年前の自治会長さんなら、そんなに忙しくないだろうと反論されることがありますが、おかげさまで、26連合の皆様が、地域のことは地域でやっていこうと、1つの輪の中で今着々と、もう私共の方は9年目位になりますが、それでも各団体が自分たちでやっていることはやっているが、なかなか横串をさしていなかったということが、ここへ来て、その団体長も全部1つのグループに入ってやっていますので、非常に良いやり方ができていると思います。</p> <p>また、昨年、南足柄市さんの34の自治会長の集まりの中に呼ばれてコミュニティの話をしてくれということで、お邪魔して、小田原市が進めているコミュニティのあり方を、自治会長さんにお話をして、南足柄市もこれからコミュニティをやっていくというようなお話もいただきました。</p>
牛山委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>南足柄市で編入合併となると自治会やコミュニティ活動に不安があること。あるいは、それに対して、小田原市で取り組まれている木村委員のお話を伺いながら、合併したらどんな風になるのかなということも少し見通せるのかなと思います。</p> <p>会長、やはり今お話があったように、不安やそれをどう解決するかについていろいろお考えだと思いますが、今のお二方の話を聞いた感想はどうですか。</p>
加藤会長	<p>今回、南足柄市の方たちがいろいろ心配なさっているという話を伺っていますが、いろいろと考えていられると思いますが、おそらくそのいくつかの内の大きなものの1つは、佐藤委員がおっしゃったような、中心部から離れたところは、地域の意見が自治に反映されるのかというものです。</p> <p>小田原市も非常に広い地域で、北は桜井から東は橘、南西は片浦ということで地区性も全然違う26の地域からなっています。</p>

<p>牛山委員</p>	<p>エリアが広いので、皆様の地域を具体的にどう対応するか、地域の課題については皆様方が自分たちで解決することが一番理にかなっているという考え方で、一貫して地域コミュニティというものを強化する方向で総連合会長をはじめ自治会長といろいろな議論をしながら積み重ねをしてきました。そうした中で、現時点では26地区それぞれが地域別計画、これは最初に平成22年度位までにはできたものが、今回、総合計画の見直しとなり後期バージョンということで第2期の地域別計画ができていて、各連合自治会が計画を持って、また今、木村委員がおっしゃったように、各地区では自治会長、民児協、地区社協、老人会、あるいは消防団とかPTA等の方たちが一堂に会して、地域の課題を共有するという仕組みが地区によって熟度は様々ですが、一通りできあがっているの、これは非常に大きな成果だと思っています。</p> <p>今回、合併協議の中で佐藤委員がおっしゃったような、懸念や不安が南足柄市の奥津委員であったり、佐藤委員から提議がされて、これをどうするのかということで、小委員会をつくりました。その中で今のようなキャッチボールがあってそういう方向であれば、地域審議会のようなものをつくってやっていけるのではないかと、それには小田原市の取組が1つのモデルとなっているので導入できるのではないかと議論の感触を得ていただいたと報告を受けております。</p> <p>こういったことも、今回申し上げたように、合併するしないにかかわらず、両市が向き合って議論されたことの成果であると思っています。</p> <p>いずれにしても、地蔵堂も距離的に遠いですが、今申し上げたような仕組みがあれば、充分カバーしていけると、我々は小田原市の中での地域コミュニティの取組の実感を通して、申し上げることが出来ます。</p> <p>これは、合併しても大丈夫と言っているのではなく、そういう仕組みを持てば広い市域であっても、十分に地域の自治というのはそういったものを通じてはやっていけると小田原市の実感としては思っています。</p> <p>私も相模原市の合併の際に関わらせていただき、この時に市民としても見ていました。合併となると、編入される側の自治体、地域の皆様にしてみると大変不安もありますし、どうなるかということだと思います。</p> <p>ですから、今の地域の自治会活動やコミュニティの活動と行政がどう連携できるのか。あるいは、合併して行政が遠くなるとか声が届かなくなることなどが大きな課題です。</p> <p>そのために、今回の協議でも地域審議会をつくって行政にきちんと声が届くような仕組みを考えておられます。</p>
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

宗像委員	<p>相模原市でもそれは同様でした。図らずもその後政令市になるということで区役所ができましたが、合併協議の段階では地域審議会をつくり、それがきちんと市政に、市長に意見を述べられるというような仕組みをつくることで解決していこうとしました。</p> <p>そういったことが、きちんと機能するかどうか、そういったことを協議できているかも大事なところだと思っています。</p> <p>自治会コミュニティの問題について話してきましたが、宗像委員、編入される地域として、その地域の住民として活動される中、不安や希望、期待などはいかがでしょう。</p> <p>期待、希望の観点からお話しします。</p> <p>3,270件の事業の見直しの中で、人材の観点からスケールメリットを活かし、教育の場のサービスの向上が見込まれることに興味がありました。</p> <p>学童保育所に関して南足柄市は、民設民営ですが、事業見直しで公設公営になるということで、学童保育所費、月々払う保護者負担が、南足柄市は現在平均が9,000円ですが、小田原に合わせると7,000円になります。2,000円減ということで、保護者としては金額としては嬉しいです。ただ、その反面、先ほど木村さんからコミュニティが大切とありましたが、私は共稼ぎとか生産年齢世代ということで、学童保育を利用するとき、保護者会がありまして、南足柄市ではNPO法人の方にも頑張ってもらっています。普段学童に子どもを預ける場合に、いろいろ面倒を見ていただいたり、遠足があったり、時間があれば運動場に出していただいたり、サービスが充実していますが、その辺のサービスが減少するという懸念があります。</p> <p>もう一点、交通安全に関して不安を持っています。昨年度、神奈川県交通安全協議会で、南足柄市の交通安全協議会が3年以上死亡事故がない市町村に選ばれ、その中でも4年、死亡事故がなくて表彰されました。事務事業調整の中で、交通指導員さんを削減するというお話がありました。その辺りを現時点で南足柄市では暫金時隊の皆様にも子どもたちの見守りでお世話になっています。今後、どうすれば子ども達の交通安全を保てるか考えていただきたいし、不安があります。</p>
牛山委員	<p>会長、宗像委員の発言を受けいかがですか。</p>
加藤会長	<p>個別のことを話すと長くなりますので、かいつまんでお話ししたいと思います。</p> <p>教育の分野ですが、これは当然のことながら未来に向けては一番重要</p>

<p>牛山委員</p>	<p>な分野であると思っています。教育水準が下がることはもちろんあってはいけませんし、様々な教育現場での課題があることについて、きちんと対応していく体制を整えるにはいろいろな手立てを考えていかなくてはなりません。</p> <p>教育長も来ておりますが、教育長以下、この学校現場での課題、また一方で、学校を支えるべき地域との連携を細かくやらせていただいています。</p> <p>南足柄市では配置されていない多様なサポートスタッフなどについても、小田原市はいろいろな制度があります。こういったものについては、良い意味で展開していけるのではないかと確信するところであります。</p> <p>一方、学校と地域の連携についても、小田原市は幸い連合自治会単位でのコミュニティがありますので、ここと学校がしっかり連携していくコミュニティスクールの制度の導入も始まっていて、小学校25校中9校に導入がされています。これは31年度までに全校に導入する予定となっています。</p> <p>コミュニティスクールと一緒に、そこに先ほどもおっしゃったような地域コミュニティの会議体も一緒に付いて、学校を核にした地域の運営、その中で子どもたちが学校の中でも外でも育っていけるような、そのような地域をつくる仕組みが着々と今動いています。総合教育会議でもそういった議論を具体的に始めているところです。</p> <p>また、学童保育については、宗像委員がおっしゃるとおり、小田原市と南足柄市は仕組みが違います。学外でNPO法人の方が運営されている南足柄市に比べ、小田原市は公設公営で、学校の中でやっているのです。仕組みが違います。</p> <p>この辺りも両者がそれぞれ持っているメリットが上手く融合できればと非常に良いものができると思います。</p> <p>小田原市の場合、学童保育に加えて、放課後子ども教室を行っています。これは、学童に行く子どもだけでなく、放課後の時間を使って、学校の補習やあるいは正規の時間帯にできないようないろいろな意味での総合学習や体験学習的なことを地域の方に講師になってもらい、やるような時間を放課後に作っています。</p> <p>放課後子ども教室と学童クラブの融合のようなことも、今やり始めています。その辺りを含めて、今展開している部分、双方の良い部分を共有していくことでデメリットを充分乗り越え、メリットも充分享受できると考えています。</p> <p>ありがとうございます。</p>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>小野委員</p>	<p>編入する自治体とされる自治体と、両方の立場でご意見をいただいておりますが、小野委員さんいかがでしょうか。</p> <p>ただ今、自治会、教育関係の話がありましたが、福祉の面を考えると編入する側、される側に関係なく、合併ということになると社会福祉協議会は法律に基づいて市町村に1つ置くことになっています。そういう意味では合併すると、小田原市の社協と南足柄市の社協が1つにならないといけません。</p> <p>それぞれの事業は、長い間、積み重ねた歴史がありますのでこれをどのように継続し、見直しをしていったら良いかということになると、大変エネルギーが必要な作業になるかと思えます。</p> <p>これは福祉に限らず、経済、青少年、文化、スポーツなど、さまざまな市民活動がありますので、合併後、それぞれの団体がどのように運営を考えていくのかという大きな課題を抱えることになるかと思えます。</p>
<p>牛山委員</p>	<p>1つの論点であると思えますが、編入合併という方式で協議をしてみたということで、会長、全体的なご意見をいただければと思います。</p>
<p>加藤会長</p>	<p>小野委員も福祉の分野に非常に造詣が深い中で、今会長としてやっただいただいている中で、福祉についてもいろいろな分野がありますが、それぞれについて、小田原市が優れている部分、南足柄市が進んでいる部分やサービスの手厚さ等、若干違いがあります。</p> <p>こういったものも今回の協議の中では、1つ1つの事業についてすり合わせをして、受け継いで行くべき水準に落ち着いたもの、あるいは両市のいろいろな経緯の中で、このサービスについては行政改革をしなければならないので、廃止をしていこうかと職員が結論付けたもの、いろいろなものがある。いずれにしても、福祉分野はいくつか直面する大きな課題の1つということ間違いありません。何もしなければどんどん費用が膨らんでいく、費用が膨らんでいかないために、市民の健康増進をどうするか、介護にならないためには、どうやって日々を過ごしていただくか。官民がどういう連携で支えていくのか。</p> <p>したがって、地域包括ケア体制の構築もこれからまさに社会福祉協議会さんが中心になってやってくださるわけで、こういったものについて連携していく必要があります。組織的な統合も視野に入れながらこれから作業していくと思えますが、ある意味、いくつかある、最大のボリュームゾーンの内1つと言えます。</p> <p>また、小田原市の話になってしまいますが、小田原市の地域包括ケア体制の構築の前提として、元気な段階でお互い様の気持ちで地域を支え</p>

<p>牛山委員</p>	<p>合うケアタウン構想を進めています。</p> <p>これも自治会の連合会単位で地域の住民の方、地域の福祉系の事業所の方、医療者、薬剤師や歯科医師会と一緒に地域の中で互いに支える仕組みとしていきます。</p> <p>困り事などは生活応援隊がいくつかの地域で立ち上がっていますが、住民同士がちょっとした困り事をワンコインで手をさしのべ合う。そういった仕組みも地域の方たちの発意で動きだしています。そういう自主的な取組は南足柄市にもあると思います。その意味で、良いところ取りをすることで、地域の福祉の課題も十分に乗り越えていけないかと考えています。</p> <p>編入する、されるは法令上の制度の話です。今、会長の話にあったように、お互いの制度の良いところや、利点、それぞれの地域活動の特徴の良いところ、それを取り合っていく。そういうこととなれば不安が解消するところもあると思います。</p> <p>合併ということは特に編入されるということになると、自治体名はなくなってしまうのですが、地域は当然なくなるので、そこでの住民の皆様暮らしは続いていくわけです。</p> <p>編入する側の自治体も財政や行財政改革をどうするかなど課題がいろいろあるかと思いますが、以前から合併について思っているのは、メリット・デメリットは当然出てくるのですが、メリットであっても、デメリットになる場合もあります。たとえば、行財政改革が進められるということはひとつメリットです。でも、一方で、例えば職員数が減ればサービスが減ってしまうところも出てくるかもしれません。</p> <p>それを補うために、どのような行財政効率を高める仕組みをつくるかや、公共施設も重複しているところを整理できるのはメリットと言えそうですが、一方、身近な施設がなくなって良いのか、メリット・デメリットはそれぞれありますが、冷静に比較しながら将来の地域像を考える必要があります。</p> <p>その意味で協議を行うことで、そういうことができるか、できないか。これを市民の皆様に提示してご判断していただくということではないでしょうか。</p> <p>市民の皆様にも、先ほどから、地域の自治会の活動が大変になってきていることや、NPOや市民活動も活発になってきていて、市民の皆様自身も今後の行財政のあり方を考えた時にどうするかということになると思います。その意味で、会長からもお話がありましたが、合併問題というのは2市がもし合併をするとどうなるか。あるいはそれは合併という手段でなくても良いかもしれませんが、持続可能な地域社会をつく</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>るにはどうすれば良いのか、何か考えなくてはなりません。そういうことで、これをひとつの材料として議論していこうという事です。おそらく今後、50年とか100年の長いスパンでものを考えていかなくてはならないという点でも難しい問題ではありますが、委員の皆様、ご感想なり、私のコメントに対してご意見があればいただきたいと思います。</p> <p>宗像さん、いかがでしょうか。</p>
宗像委員	<p>今まで1年間、委員の皆様と3,270の事業について話し合い考えてきました。利点を生かし、うまく考えていければいいのではないかと思います。ただ、サービスの低下だけは避けるように今後も頑張ってもらいたいと思います。</p>
牛山委員	<p>他にございますか。</p>
小野委員	<p>牛山先生から、合併について冷静に考えるという話がありました。その1つとして、今日の冊子にもありますが、今回の協議の中で、人口減少とか財政収支の問題がありました。財政収支のマイナスが意外と近いうちに始まるのがわかり、私にとっては危機的な状況と感じています。そういう意味では、両市民の認識に危機感がないのではないかと、皆様には少し失礼ですが、認識が薄いのではと考えています。</p> <p>収支がマイナスになる時期は小田原市では5年後、南足柄市では2年後と冊子に記載があります。そういうことを行政サイドはもっと市民にわかりやすく説明すべきだと、ある意味では材料提供を少子高齢化とか人口減少という言葉ではなく、実証的な内容を示して繰り返し説明しなければいけないと思います。</p> <p>この問題意識がないと、現状を変えなくてはならないという発想は生じないのではないかと思います。特に南足柄市は2年後に収支が不足するというので、これだけでも驚きの内容ですが、このことが今後合併につながっていくのかどうか。</p> <p>一方で、人口減少、財政の悪化は小田原市や南足柄市だけの事ではなく、全国的な面もあります。こういうことも論点の1つとして、皆様に考えていただくのがいいと思います。少し生意気ですが、以上です。</p>
牛山委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>私から、また委員からも感想をいただきました。</p> <p>会長はどのようにお考えですか。</p>

<p>加藤会長</p>	<p>協議会の会長としての立場と小田原市長の立場の2つあります。</p> <p>小田原市長の立場でいうと、先ほど来、申し上げている通り、このままいってしまうと、今でさえ、いろいろな意味で市民の皆様にご負担をかけ汗をかいていただいています。</p> <p>また、受益と負担の議論にもこれから踏み込もうとしている中で、相当程度、これまで当たり前だったものの、取り崩しと言うか、あるいはそれに変わる何かをこしらえていかないと今のサービス水準が維持できない状況に既にあります。そういった部分に関しては、これから先も公共施設の再編や分かち合い社会の構築などいろいろな切り口でやっていきますが、なかなかそれだけでは追いつかない状況が現在の推計を見る限りでは差し迫っています。</p> <p>ここ数年、特に昨年から今年の作業を通じて数字ではっきりと確認できています。そういうやりくりの作業をより緻密に程度を厳しくやっていく道も当然あると思います。</p> <p>そうでない道もあるということを含め、別の道、合併をして2つが一緒になり、今まで2つがやっていたことを1つにすることでやりくりすることができる。こういう道が具体的な数字をもって示されたと考えています。</p> <p>宗像委員が発言された、サービスの低下はできるだけ避けてもらいたいという話がありましたが、合併するしないに限らず、このサービス水準をずっと維持するのはなかなか難しいと思います。やはり、一定程度の負担をお願いしたり、あるいは今まで行政が、当たり前に行われていたことを、市民の皆様にも一緒にやっていただいたりすることは避けて通れません。それをやってもなおかつ厳しいです。</p> <p>先ほど、スクリーンでお見せした、両市がそれぞれ行財政改革をかなり厳しく行っても、なかなか難しい中でどうするかを迫られています。</p> <p>あと、小野委員さんのお話で、両市民の皆様の数字に関する意識が薄いのではないかというお話がありました。行政サイドからの説明がもっとされるべきだというお話ですが、まったくそうであると思います。私たちが分かっている範囲で、状況については広報、ホームページ、あるいは日々現場に出向く中でお伝えしていますが、今回のように、包括的にやったのは初めてで、こういった内容、今回のお話は極めて全体的な結論だけしかお話ししていませんが、個別の各論についての見通し等もお伝えしていかなければならないと思います。今回、小田原市側で説明会を何度かしていますが、広報の方法がまずかったこともあると思いますが、なかなか会場へ市民の方にお越しただけていない現状があります。</p> <p>今の段階では、小田原市は決算も黒字が相当出ているので、合併のこ</p>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>牛山委員</p>	<p>とを考える必要はないのではないかと考えている方もいるかもしれませんが、今はそうでもこれから先、小野委員がおっしゃったようにすぐそこまで、そうじゃない状況は迫っています。</p> <p>これについて、私たちもしっかりお伝えしなければいけない。それは、結論を誘導するためではなく、事実そうであるということをお伝えした上で、皆様にはしっかりご判断いただく。このことが、必要であり、そのための丁寧な説明が私たちに求められていることです。</p> <p>今回、もし2市が合併したらどうなるか、シミュレーションで事務事業調整を行い、その結果を市民の皆様に見ていただいた上でご判断いただくことになるかもしれません。</p> <p>合併をするしないにせよ、現状のままではかなり厳しくなっていくと思います。こういうことを踏まえると、どのように、両市が改革に取り組んだら良いのか、この合併問題についてどのように考えれば良いか、そういう材料が提供されているという点では、この協議は重要なものであったのではないかと伺った次第であります。</p> <p>これまで5つのテーマについてディスカッションをしてきました。全体を通して、感じたことや言い残した、発言しておきたいことがあればお伺いしたいと思います。</p> <p>佐藤委員お願いします。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>今財政のお話がありましたが、累積赤字の改善の方策がない限り、先に延ばせば延ばすほど、赤字額が多くなります。その額は次世代の子どもたちに引き継がれていきます。子ども達へ負の数字を引き継がないためにも、今、知恵を出す必要があると思いました。</p> <p>先人達が、その時代、時代で一番幸福な制度、環境を求めて葛藤しながら今があると考えれば、次の時代にどうバトンを渡すかということについて責任をもって考えて、引き継がなければならないのではないのでしょうか。そのような感想を持ちました。</p>
<p>牛山委員</p>	<p>小野委員お願いします。</p>
<p>小野委員</p>	<p>私は酒匂川に沿った足柄平野は、ある意味では経済、文化、人の交流、交通を含めて一体感のある地域だと思えます。前々から足柄平野の市と町は1つになっても良いかと思っていました。平成の大合併の時にはそのような合併の議論もあったようですが、2市8町で話し合った結果、合意に至らなかったと聞いています。</p> <p>現在では、それぞれの町が独自のまちづくりを進めるという動きが濃</p>

	<p>厚で、足柄平野が合体するというのは、難しいのかなと思っています。そういう意味で今回の2市の協議が市民の皆様に認められ、合併が実現し、新しいまちづくりが実行され、若い世代に、健全な形で引き継がれることを願っています。</p> <p>その結果、2市合併が県西地域に大きなインパクトを与え、足柄平野の新しい姿が模索されて発展していければ良いと思います。</p>
牛山委員	宗像委員お願いします。
宗像委員	<p>先ほど佐藤委員からお話がありましたが、次世代に負の遺産が残らないよう、必要としているものを損なうことがないように責任を持ち、これから考えていく必要があると感じています。</p> <p>今回2市の方々の前でお話しして、皆で考える良い機会になったと思います。本日はありがとうございました。</p>
牛山委員	木村委員さんお願いします。
木村委員	<p>今日のパネルディスカッションの話ではありませんが、任意協議会を通じて、南足柄市の自治連の会長並びに佐藤さんともお知り合いになり、その中で奥津前会長とも話しましたが、2市8町の自治会長が1つの輪を作っていったらどうかというような話も今出ています。奥津会長とは3ヶ月に1度位、顔を合わせ、一杯飲みながら、いろいろな話をしています。その中でも、自治会の各町と膝をつき合わせて話をしなければならぬと思います。</p> <p>これは、別に合併するしないの話ではなく、各々ばらばらな活動を行っています。これは各町のやり方もあるでしょうが、せめて、役員同士、顔を合わせて、皆様といろいろなお話ができるようにやっていったら良いのではないかと、今、お話ししながら進めています。これが、すぐにできるできないかは別にして、せめて2市8町の自治会の方と良いお付き合いができれば良いと思っています。これが、私が任意協議会の中に1人の委員として参加し、一番良い収穫だったと思います。</p> <p>今まで、南足柄市の会長のことは任意協議会が始まるまでは名前も知りませんでした。協議会ができたおかげで、このようなお付き合いができるようになり、これが、2市8町に広がっていけばこんなに良いことはないと思います。</p>
牛山委員	ありがとうございました。全体の総括的な感想を4名から伺いました。

加藤会長	<p>会長、今の感想を踏まえ、全体について総括的なご意見を申し上げます。</p> <p>今改めて4名のお話を伺い、協議の具体の中身、その精度や緻密さについては課題が残った部分はあったと思います。</p> <p>大きな意味での両市を含めた県西地域の未来についての議論は、これまでにはないレベルでできたことは間違いないと思います。</p> <p>また、そういった議論と並行して、木村委員がおっしゃいましたが、今日奥津委員が会場にいらっしゃっているかわかりませんが、例えば地域のことについては両市の自治会長レベルでの議論を通じた信頼関係、交流関係も生まれてきたことは並行して大きな収穫だったとお話を聞いて改めて感じました。</p> <p>また違う観点で言い残したことがあります。</p> <p>私自身のひとつの未来に向けたミッションだと思っていますが、日本という国土をこれからどういう都市制度で運営していくのか。この議論が、ここ数年来ずっと国、都道府県あるいは市町村レベルで行われています。</p> <p>ご承知の通り、都市制度としては、大きなところでは、横浜や川崎のような政令市があり、人口が元々30万人以上、今は20万人以上となりましたが中核市があり、今はなくなりましたが特例市という制度があり、一般市と町村があります。それが全体として、合併前は3,000を越える自治体が今は1,700程度にまとまっていますが、こういった国の仕組み、国、都道府県、市町村という3層の構造でこれまで通りやっていけるか。あるいは、1,700以上分流した形の自治体の仕組みで、この国のいろいろな課題を解決できるのかを考えると、やはり私はどこかで地方の運営、都市の運営というのは、しかるべきエリアでまとめていくことが必要になってくると考えます。私個人の考えというよりは、おそらくそうしていかざるを得ないと思います。</p> <p>国も借金まみれで大変な累積赤字を抱えていて、いろいろな機能や権限を抱え続けることができなくなる中で、地方にそれを下ろしていきたい。お金はなかなか無いが、下ろしていきたい。</p> <p>一方、地方は小さな自治体も高齢化が進み、またいろいろな課題を抱える中で財政的にも非常に苦しくなってくる。人間的にも苦しい。この中で一定程度の規模感や権能、能力を持った自治体が地方を運営していく形に向かわざるを得ません。</p> <p>国で描いているデザインとしては、政令市はともかくとして、中核市くらいの規模、ここに地域のいろいろな意味での自治の機能や財政の権限を下ろそうと国の議論が進んでいます。</p>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

神奈川県では横浜・川崎・相模原という3つの政令市があり、それ以外に中核市もいくつかあります。

相模川よりこちら側は、ご承知の通り、高齢化が進み人口が減っていった、このままだと一般市のままでいった場合どうなるか私としては心配です。

今、いろいろな意味で県西地域2市8町は元々まとまりもありますし、先ほど小野委員がおっしゃられたように、もともと1つでやっていた酒匂川、箱根や富士山、丹沢に囲まれたまとまりある地形であります。この中で、自治を敷いていく、そういう地域圏を作っていくことが将来に向けての大きなビジョンになり得るのではないかと。これは私個人の考えであります。そういう思いで考えています。

今回、人口規模をどうするか、都市制度として我々は何を目指すかということの選択を迫られています。その中で、協議会があり議論がなされました。

大事なことは、そういう議論を皆様方一人ひとりがどうやって受け止めていただけるかだと思います。

今回の議論は、私は今でもそうですがこのような結論でやりたいので、皆様お願いしますと言うつもりはありません。

全体として、私たちも含めて皆がそういくべきだと納得してやっとなめる話だと思っています。

今日お越しになった方、またお越しになれなかった方にもそういう思いでこれから結果を伝えて、共に考えて行くために十分な説明と議論をしていきたいと思っています。

これは余談ですが、私が今住んでいるのは小田原駅西口の城山です。私の母親は小田原市の曾我、上曾我で農家です。父親の実家は千津島で福沢支所の裏です。

市議会が終わったら、お彼岸の明け位にお墓参りにいきます。大体、家を出て千津島の善福寺に行き、曾我を回って帰ってくる足柄平野一周コースが私のお墓参りコースです。そういう中で、今回の議論もあり、この地域の一体感をいつも頭に浮かべながら考えている。そういう意味で、間違いのない私たちのふるさとです。市町境はあっても、それは関係なく、親戚も地域の中に散らばっているし、仲間もそうですが、地域の一体感を改めて信じて、そういった道を選んでいく。こういったことも大切ではないでしょうか。

これは私の個人的な意見であり、協議会の会長としてはそこまで言うつもりはありませんが、私自身はそんな思いで今回の議論に臨んでいます。

協議会会長の立場に戻りますと、やはり編入する、されるという議論が

<p>牛山委員</p>	<p>あります。南足柄市の方たちの思いが大事になるので、これについては、こちらは予断をもたず、皆様にはしっかりと判断してもらえるように、これからも小田原市としても情報提供し、協議会としてもそういうスタンスで望んでいきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。</p> <p>ありがとうございました。私からも少しお話を申し上げたいと思います。</p> <p>ご承知の通り、日本の自治体は3,300と昔言われていましたが、平成の大合併で1,700程度に数が減ってきました。</p> <p>自治体も合併したところ、しないところ様々な評価があると思います。もちろん、合併したところで課題が残っているところや課題が出てきたところ、課題解決に向けて合併が成功したところもあるのかなど、全国いろいろだと思います。今回、この合併の協議、中心市のあり方として検討されてきましたが、この協議内容としては合併協議、事務事業のすり合わせなど、いろいろな問題が合併したらどうなるのかということが示されました。</p> <p>これについて、先ほど言ったように、冷静に判断いただき、合併した方がこの地域が良くなるのかどうか、あるいは合併しない方が良くなるのかということをお考えいただくのだろうと思います。</p> <p>ただ、合併をしないにしても、人口規模は違うが両市とも厳しい現状には向き合わないといけません。</p> <p>合併しなくても今のままの行財政運営ができるのか、しっかりと検証していかなくてはならないと思います。</p> <p>逆に言うと、合併したらすべてが解決するのかというと当然、いろいろな問題がこれから先も出てくるでしょうし、また、合併した以上、成功するようにその後も不断の努力を続けていかなくてはならないだろうと思っています。</p> <p>これをひとつのきっかけとして、両自治体、あるいはこの地域の自治体・行政、そして持続可能な地域社会を作るためにどうすれば良いか、引き続き考える必要があります。</p> <p>先ほど、会長から中核市の話が出ましたが、神奈川県内、中核市がこれから出てきますし、既に中核市になっているところもあります。</p> <p>これもいろいろと議論があって、県から権限移譲を受け、例えば、茅ヶ崎市さんでも保健所の先行権限移譲という形でやっていて、その分、市役所も大変になっていると思います。ただ、やはり住民に身近な行政は身近なところで問題解決していけるということが必要だと思います。</p> <p>中核市になるには、規模が足りないから合併しろという国の言い方は違うと思います。</p>
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>司会</p>	<p>そういう規模と能力を持っている自治体は、住民のためにしっかりとその役割を果たしていくということで、権限移譲をしっかり受けていくべきだと私は思っています。</p> <p>これから、この圏域でどういった中心市が形成されるのか、中心市の力を十分に発揮しながら、近隣の市町村と連携していくのか。こういったことが、これから課題になってくると思います。</p> <p>そういった意味で、自治体の広域連携なども視野に入れた協議をされたと思いますので、この点も非常に重要だったと思います。</p> <p>先ほどご紹介いただきましたが、神奈川県総合計画の委員をさせていただいていますが、神奈川県の計画もそろそろ想定していた10年が終わりと、また新しい10年の基本構想を立てていくということで、これからまたいろいろ大変ですが、例えば、黒岩知事は、人生100歳時代だとおっしゃいます。</p> <p>これは本当に大変なことで、総務省の研究会等でもいろいろ言われているようですが、今までは人間80歳位になると大体寿命は来るだろうと言っていましたが、大体80歳で寿命がくるといふより、今は大体90歳位です。10年、それだけ行政の負担が増えています。</p> <p>さらに100歳時代となると、もう10年、行政として、住民を支えていく、これは大変なことです。私も父を亡くしましたが80は超えていました。いよいよ地元の田舎の市役所にお世話にならなければいけないということになります。変な話ですが90歳、100歳、医療も進歩し、今後110歳とかになると到底、自分の蓄えだけではやっていけないとか、もう既に足りないということになります。この辺をどうするか、これからしっかり考えていかないといけなくなります。</p> <p>県の計画でも、県西地域、三浦半島をこういった状況の中、どう支えていくのが非常に大きなテーマとなります。</p> <p>なにより、基礎的な自治体である市がこの役割を担うことで、今後、地域づくり、まちづくりをどうしていくのか、非常に大きなこの地域の分岐点にもなりますので、是非市民の皆様にも興味を持っていただき、この協議結果を受け、判断していただければと思います。</p> <p>予定しておりましたテーマを終わりました。以上で、パネルディスカッションは終了したいと思います。</p> <p>ご清聴ありがとうございました。</p> <p>牛山先生、協議会委員の皆様、貴重なお話をいただきありがとうございました。</p> <p>ここでパネリストの皆様が、退場されます。</p>
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------